資料　４

田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会における

意見等の概要（第１回～第６回）

目　次

田浦地域における教育環境整備の方策案について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

方策案１　田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。

１　通学や通学路について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２　学校規模について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
３　方策の検討について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
４　地域について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
５　跡地利用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

方策案１（参考）　港が丘１丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、
港が丘１丁目を船越小学校に編入する。・・・・・・・・・・・・・・・・9

方策案２　長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。・・10

方策案３　田浦小学校を現地で建て替えする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

田浦地域における教育環境整備の方策案について

方策案１	田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。
趣　旨	田浦小学校・長浦小学校ともに全学年が単学級の小規模校となっており、今後も児童数の減少が見込まれます。 また、田浦小学校については、校舎の建築年数が 70 年と市内で最も古く、建て替えの検討時期を迎えていますが、校地面積が狭隘であり、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）や周辺道路の状況から同一敷地内での建て替えは困難であるため、田浦小学校区を長浦小学校区へ編入するものです。
懸　案	編入後の通学については、距離だけではなく、トンネル、道幅、人通り、防犯などの課題があるため、児童が安心安全に通学できるように対応策を講じる必要があります。

方策案１ （参考）	港が丘１丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、 港が丘１丁目を船越小学校に編入する。
趣　旨	港が丘については、港が丘１丁目が田浦小学校区、港が丘２丁目が船越小学校区と別れている状況があるため、町内会・自治会区域と小学校区を合わせる観点から港が丘１丁目を船越小学校区に編入するというものです。
懸　案	各地域の歴史や地域性、実情などを考慮し、検討する必要があります。

方策案２	長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。
趣　旨	通学距離や小中一貫教育の観点から、長浦小学校の場所と田浦中学校の場所に小中一貫校を設置し、子どもたちの気持ちが前向きになるように新しい教育環境を整備するというものです。
懸　案	長浦小学校に中学校を併設するには、運動場面積の基準を満たさないため難しい状況です。 田浦中学校に小学校を併設するには、敷地の形状から実現には工夫が必要となります。

方策案３	田浦小学校を現地で建て替えする。
趣　旨	田浦小学校は、田浦に住む多くの人が通ってきた歴史ある小学校であり、地域活動や避難所など地域の拠点となっているため、現地での建て替えを行い、田浦小学校を存続するというものです。
懸　案	田浦小学校の敷地が狭いため、運動場の面積や形状が確保できないなど、同一敷地での建て替えは難しい状況です。

【方策案１　田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。】

１　通学や通学路について

No.	内　容
1	田浦小学校と長浦小学校が統合した場合の通学距離が最長で約３ｋｍとのことですが、低学年が心配です。
2	自転車や自動車等の交通量が多い国道を通らなければならないため、安全対策をどのように行うかが課題になると思います。
3	老朽化が進むトンネルが、地震にどこまで耐えられるのかが不安です。
4	学校が遠くなることで、障害のある子どもが自力で登校できなくなることも考慮しなければいけないと思います。
5	バス通学が自費負担となると、田浦地域に住むという選択肢が取られなくなり、地域の存続にも関わります。小学生を対象に公共交通機関を無料とする施策を講じてもらえれば、人口増加につながると思います。
6	長浦小学校の通学路にトンネルの狭い歩道がありますが、歩道と車道の境のガードレールの構造が、身体との接触時に怪我をしてしまいやすいようなものとなっています。国道のメンテナンスについて細心の注意が必要ではないかと思いました。
7	現在、長浦から通う田浦小学校の児童は、自費で通学定期を購入している状況ですが、こうした部分とその条件が違ってくると思いますので、その点は行政で保障していくことが大事だと思います。
8	スクールバスを導入していただきたいと考えます。公共交通機関を使った通学は児童にとって難しい部分があるので、例えば田浦小学校の跡地まで来てもらってからスクールバスで通うという形も考えられますし、スクールバス等で通学路の安全を確保していく必要があると思いました。
9	仮にスクールバス等が出るとなったときに、子どもたちは何時に家を出発すれば良いのかが気になりますし、具体的にどのぐらいの距離でどのぐらいの時間がかかっているのかを知りたいです。
10	通学距離の問題もそうですが、トンネル内を子どもに歩かせるのはあり得ないと思います。道路も国道であるため、市のみで対応できるものではないと聞いていますし、この環境がすぐに改善されるとは思えません。
11	スクールバスの導入または路線バスの利用という議論も出てくると思います。ただ、例えば小学校１年生が一人でバスに乗ることは安全面で不安がありますので、こうしたことへの対策として、登校ボランティアを配置するのが良いと思います。
12	地域福祉の中心的な役割を担っている民間施設のお力を借り、例えば高齢者の送迎に使用している車両を使わせてもらうことも考えられると思います。
13	田浦駅から田浦小学校まで歩くのにトンネルを通る必要がありますが、トンネルの歩道も狭く、人とすれ違うことも大変ですので、児童の安全面を考えると、児童にトンネルを歩かせる選択肢はどうなのかと思います。

No.	内　容
14	スクールバス以外の選択肢であれば、バスの交通費に対する補助を申請するスタイルも提案したいと思います。
15	通学区域についてですが、学校を選択できるようにしていただければと思います。
16	小学生が通学でトンネルを通ることについての話がありましたが、そもそも自転車は車道を走らなくてはいけませんし、そうするように指導するのが基本だと思います。その点を考えていただきたい
17	田浦町３丁目から１丁目に抜けるトンネル、田浦町１丁目から長浦に抜けるトンネルがあり、長浦から田浦と安針塚に抜けるトンネルは非常に長いです。徒歩経験のある方は分かると思いますが、これらの３つのトンネルを通過するのに、子どもの足で約10分～20分はトンネルの中にいる時間が出てきます。通学や通勤等でロードバイクを含め自転車を利用する方も大変多いです。 ロードバイクで車道を走る方はいいですが、年配の方が車道を平気で歩いているという状況もよく見かけます。その場合、３つのトンネルにそれぞれ上りと下りがありますので、トンネルを通る道が６つあることになります。こうした場合、これらの道を子どもたちにどのように通過させるかという検討が必要ですし、スクールバス以外で、例えば、仮に京急バスの通学費の補助が半分しか出ないとなったときに、中には経済的な理由から徒歩で通わせるご家庭も出てくると思います。それぞれの通学路の出口と入口にボランティアを配置する必要があります。
18	自転車は歩道を通ってはいけないと思いますが、そうした部分での安全管理をする方を12名配置することも考えられます。ただ、こうしたときにボランティアの配置とスクールバスの導入のどちらが安いのかというところも検討課題の一つになると思います。
19	仮に補助が難しいのであれば、田浦地域の方は、田浦中学校方向へ上った方が現実的かと思いますし、統廃合であれば、船越小学校、田浦小・中学校という形の方が良いと思います。
20	スクールバスをどれだけ充実させられるか、またはスクールバスでできない部分を公共交通機関の併用という形で補う等、さまざまな方策はあると思いますので、そうした部分をクリアできれば、田浦４、５丁目と港が丘地域については現状のままで問題ないと思います。
21	田浦警察署と交通安全協会等と調整し、例えば通学時間帯において、上りは一般の方、下りは通学の方に限定するといった制限をつけることもできるのではないかと感じています。
22	小学生は予想のつかない動きをしますので、トンネルを徒歩で通学させるのは現実的ではないと感じていますし、こうした危険にさらされなくて済むような方法は絶対必要ですし、ぜひそうした方法を強く望みたいと思います。
23	どれだけ柔軟にスクールバスを走らせるかだと思いますし、道が狭いからできないというのは不安に感じてしまいます。例えば、田浦小学校を起点としても、ワンボックスカーを田浦泉町、田浦大作町へ走らせるという検討も必要になると思います。また、田浦小学校以外の候補先として社会館の駐車場、その他に田浦４、５丁目の大通りも道が広いので、そうしたところで乗降はできると思います。ただ、広い場所というよりも狭い場所へいかにしてどこまで入れるかということだと思いますし、通学の時間も含めて第一に考えていただきたいと思います。
24	田浦３丁目の寺の裏で開発が行われており、その多くが私有地ですが、その中で事業者が所有している土地があります。こちらについては通行許可を頂いており、津波や地震の際、避難のため上に上がらせてもらえるという話も事業者から頂いていますので、地域協力の一環として協力を仰げると思います。

2　学校規模について

No.	内　容
1	両地域には児童が少ないですが、クラスにある程度の人数がいることは、子どもの学びや成長に必要不可欠なことだと思います。
2	田浦小学校の子どもたちが、長浦小学校に来た時にさまざまな心配があると思います。ただ、そのような変化を乗り越えられる子どもは、より成長できると思います。各学年１学級のところが２学級になると、より良い教育を目指す余地が生まれると思います。男女数のアンバランスが解消されることも教育的にメリットだと思います。
3	教職員は、学校生活を充実されるために知恵を絞っています。人数が少ないからマイナスだとは思っていません。田浦小学校の一番の課題は、校舎の安全面であり、良い教育環境を提供できればと思います。
4	田浦地域の小学校の現状において、他の地区と一緒になることで、子どもたちの集団での学びに繋がると思います。
5	昔と比べると、子どもたちが弱くなっています。特に小規模校では、小規模の良さもある一方で、人間関係が固定化されることでストレスを経験する機会がなくなっていると思います。問題が起きない学校が良い学校ということではなく、起きた問題について教師と一緒に乗り越えることで、さまざまなことを学べると思います。
6	田浦小学校と長浦小学校と統合するのが良いと考えています。その理由として、男女比も含めて少ない児童数でいろいろ取り組む必要がある点において、教育を効果的にやる上で厳しいと感じることがあります。
7	仮に田浦小学校と長浦小学校が統合し、今後においても、逸見小学校、沢山小学校、桜小学校、汐入小学校の統合の話も出てくると思います。こうした中で、西逸見１、２、３丁目に住む人の中には長浦小学校の方が近いという子どもも出てくると思いますが、そうした場合は学校を選べるような形になるのでしょうか。
8	教員の指導力の向上についてです。新しく教員が入ってくる中で、お互いに先生方が成長し合う、あるいは場合によっては学年で授業を交換し、学年全体を見ながら成長していくという場面が非常に作りづらい点がデメリットだと感じます。
9	小規模校のメリットはありますが、子どもたちを見ていると、たくましさの部分が少し不足しているように感じます。理由はいろいろあると思いますが、子どもたち自身が育ってきた環境に左右される部分が非常に大きいと思います。本来であれば、子どもたち自身がさまざまな部分で競争したり、時には喧嘩したりすることで成長していくと思いますが、小規模校ではなかなかそうした経験を積むことができない部分も考えられます。
10	できる限り多くの人数がいる環境下で育ってほしいと思いますし、単学級のメリットよりも複数学級のメリットについてしっかり考えてあげたいという思いがあります。
11	人間関係が固定化することで、仮にその関係がうまくいかなかった場合に、このことがデメリットになり、子どもたちの今後に大きく影響することが考えられます。
12	実際に単学級ではない別の学校に転校したいとの相談を受けたことがあるというものがありましたが、これとは真逆のケースも経験したことがあります。小規模校についてはさまざまなご意見がありますが、その児童にとってはこうした小規模校が合っていたというご意見も頂いていることを紹介しておきたいと思います。
13	教員の研修という意味では多くの教員がいた方が良いと思いますが、小規模校においては、子どもたち一人一人と向き合う時間が充実しているのではないかと思いました。

3　方策の検討について

No.	内　容
1	一番重要なことは、学校教育の質を上げることだと思います。
2	田浦小学校の建築年数及び子どもの安全性を考えると、田浦小学校区を長浦小学校区に再編する案が有力だと思います。
3	学校の統合により、学童クラブが家や学校から遠くなってしまうことと、１カ所の学童クラブに子どもが集中することが懸念されます。
4	学校がなくなることによる、心情面のケアが必要です。
5	小学校の統合は、基本的には反対です。
6	地域への説明や意見を聴く機会が不足しているように感じているので、説明会やパブリックコメント等の機会を設けてほしいです。
7	第２回資料のシミュレーションは、人数と面積を合わせた点では良いアイデアだと思いますが、町内会や自治会の区割りにも関わる話になるので、該当地域の住民の理解も含め、深く掘り下げて検討していかなければならないと思います。
8	田浦小学校と長浦小学校を単に合わせるだけではなく、全ての近隣地域を巻き込んだ計画を進めていければいいと思います。
9	田浦小学校と長浦小学校の再編だけではなく、近隣地域の小中学校も含めて広いエリアで長期的に検討することも必要だと思います。
10	将来的に同じような議論が繰り返されるのが目に見えていますので、学校の建て替えも含め、市全体ないし県全体、そして長いスパンで検討していただければと思います。
11	０歳の子どもと小学校１年生の子どもがいる家庭は、例えば子どもが田浦小学校から長浦小学校へ移動した後でも、推計上、長浦小学校が小規模校になる可能性が大きいですし、数年後になればまた違う小学校へ移動するという家庭が出てくることも考えられます。もう少し視点を広げた形で検討できないか提案させていただきます
12	築年数の限度は80年だと聞きました。より広域でより長いスパンで検討することはできないかと思っているところです。
13	今後も、市内各地域で教育環境整備の検討を進めていく場合、スクールバスが各地域で必要になってくると思いますし、それを踏まえて市でスクールバスの予算計上を検討していただき、子どもたちのためにスクールバスを出すという形が適切だと思います。このようにすることで、各地域における教育環境整備の検討についても地域住民からのご理解を頂けると思います。
14	行政区を超えて統合することについて、例えば、田浦１、２、３丁目が長浦小学校で、西逸見と東逸見も長浦小学校が良いのではないかと考えます。
15	町内会の役員会にて、地域住民への周知が不足しているのではないかというご意見も頂きました。また、この計画に関するご意見に対して教育委員会がどのような回答をしたかも含めて、地域住民へフィードバックしていただければと思います。
16	田浦地域の方々に長浦小学校の状況を一度見てもらう機会を作っていただくことも考えられると思います。

No.	内　容
17	現在田浦小学校に通っている児童が長浦小学校または船越小学校に通うことになった場合において、特別支援学級の児童がしっかりと学校生活を送れるような環境を整えることをお約束していただきたい。
18	小学校の校庭は、放課後に子どもたちが友達同士で集まって遊ぶことのできる一番大きなスペースとなっていますが、仮に田浦小学校が長浦小学校に編入した場合、スクールバスもしくは公共交通機関の時間の関係上、学校で集まって遊ぶことができなくなる可能性が出てくることについて考えていただきたいと思います。

4　地域について

No.	内　容
1	通学区域の範囲の検討については、地域の実情を考慮する必要があり、非常にデリケートな問題だと思います。
2	田浦地区は広い集会場がなく人口が多い割に不便です。検討に当たっては、この状況をくみ取っていただきたいと思います。
3	通学区域の検討に当たっては、各地域の歴史など地域の実情を踏まえていただく必要があると思います。
4	協議会の内容を教育委員会でまとめてもらった資料を回覧していますが、計画に対する反応がなく、ただ回覧を回しているだけになっているのが現状です。町内会、自治会、連合町内会等も含め、本件についてどのように考えるかを投げかけることも必要だと感じます。
5	長浦小学校区のうち、吉倉町と安針台は逸見行政センター管内で、長浦は田浦行政センター管内という状況になっています。各管内の催し物の通達は各管内にしか行かないので、例えば田浦警察署関係の催し物の情報も安針台には行きません。このため、小学生にポスターを描くようお願いしても、その話が通っていないので対応できませんし、このような弊害があります。

5　跡地利用について

No.	内　容
1	田浦小学校を廃止するのであれば、跡地の活用として、現在、田浦地域にはないコミュニティセンターや集会スペースなどを新設していただきたいです。また、広域避難場所としての利用の継続についても望みます。
2	学校がなくなった場合の地域への対応について、まちづくりの観点を踏まえた検討をしていただきたいです。
3	田浦小学校は、地域の皆さまの土地の一部を提供してできたと聞いていますので、跡利用を検討する場合は、地域の子どもたちあるいは地域住民のコミュニティの場として活用することも検討していただきたいです。
4	学校がなくなることによる人口減少と田浦地域のアーティスト村といった、行政としての地域活性についてどのように考えているのかを聞きたいです。また、年配の方が増える一方で子どもが少なくなる中で、誰がどのように利用していくのかについての施策も聞かせていただきたいです。
5	現在、近くにある善隣園保育センターの子どもたちは、運動会等広いスペースを必要とする行事の際に田浦小学校を使用していると思います。そのため、その子どもたちが使える場所を整備することで、こうした行事はもちろん、善隣園保育センターのふれあいの場として利用すること等を検討できれば、若い世代の呼び込みにもつながるのではないかと思います。
6	田浦青少年自然の家が今年３月末で廃止と聞いていますので、地域の方のコミュニティの場についても考えていただければと思います。
7	地域活性化等を考える上で、子どもたちから高齢者まで皆が集まれる場が絶対必要だと思います。船越地域には田浦行政センターがありますが、田浦地域にはこうした施設がありませんので、検討に当たっては十分考慮していただきたいです。
8	買い物ができるとか、役所屋のようにさまざまな手続きができるような場所があれば便利ではないかと感じました。
9	学校が持つ役割の一つとして、地域の防災拠点があると思います。田浦小学校もこうした役割を持つ場所ではありますし、一方で土砂災害特別警戒区域に入っている現状もありますが、土砂災害だけでなく地震等他の災害を見越しても地域の防災拠点は必要ではないかと思います。
10	田浦小学校の体育館にはテントが８張しか張れませんので、１張４人とすると32人しか入れません。そうなりますと、田浦地域の避難地の責任者を決めるように言われても、近隣の住民が多く体育館に入ったら何もできなくなります。こうした状況を考えると、今後のためにも、広域避難地の整備はお願いしたいです。

【方策案１（参考）　港が丘１丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、港が丘１丁目を船越小学校に編入する。】

No.	内　容
1	田浦小学校区を分割することは考えられないのでしょうか。例えば、田浦町４・５・６丁目を船越小学校区としたり、中間をとって半分半分にしたりなどの案はありますでしょうか。
2	田浦小学校と船越小学校を統合し、長浦小学校は逸見小学校と沢山小学校と統合するとバランスが取れるのではないでしょうか。
3	今後の児童数の減少が見込まれている中で、船越小学校についても建物の一部がレッドゾーンに該当しています。令和10年度の田浦小学校、長浦小学校、船越小学校の児童数の合計が435人と見込まれています。長浦小学校と田浦小学校が統合しても300人未満のため、将来的な部分を見て船越小学校も含めて検討したほうが良いのではないでしょうか。
4	自治会及び町内会の思いもあると思いますが、田浦４、５、６丁目の児童にとっては船越小学校に通学した方が便利かつ安全だということです。港が丘１丁目についても、３つのトンネルを超えて長浦小学校に通わせるよりも、船越小学校に通わせた方が便利ですし、安心感が生まれると思います。
5	田浦小学校の運動会や祭りは田浦地域でやってきていますが、これによって学区が分かれると、運動会や祭り等の行事に子どもたちが出てこなくなってしまいますので、反対です。
6	行政区に関することですが、安針台と吉倉は逸見管内であるため、田浦地域での行事に関する情報が入っていきませんし、逆もまた然りです。同じ長浦小学校でも、児童が住む場所によって行政区が異なることで、お互いの地域の情報を知らないという現象があります。行政区と学区が異なってしまうと、地域としてもなかなか悩ましいところがありますので、これは非常に難しい問題ではありますけれども、慎重に検討を進めていただきたいと思います。
7	可能であれば、港が丘地域は田浦連合町内会に属したままにしてほしいと思います。
8	現在、港が丘２丁目が船越小学校区で、港が丘１丁目が田浦小学校区ですが、仮に港が丘１丁目を子どもたちを船越小学校に通わせるとなった場合、自治会は田浦連合町内会に属しますが、港が丘２丁目の子どもたちは、田浦の行事には参加しないでしょう。そうした状況の中で、港が丘１丁目が船越小学校区となったときに、自治会は田浦のままにしたいとしても、おそらく難しいですし、大人の人は来るかもしれないとしても、子どもたちはまず来ません。また、港が丘地域よりも遠い地域もありますので、このことも含めて考えないといけないわけですが、港が丘地域はできてから20年経っていない新しい町内ですので、その点も含めて考えていただきたいと思います。

【方策案２　長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。】

No.	内　容
1	子どもたちの気持ちが前向きになるような形が良いと思います。例えば、長浦小学校の場所と田浦中学校の場所に小中一貫校ができれば、子どもたちも新しい教育環境で気持ちが前向きになると思います。
2	小中一貫の教育に関して言えば、小学校高学年の専科制が積極的に進められている中なので、非常に魅力的な学校スタイルだと思います。
3	長浦・田浦の小中学校併設校のシミュレーションに関しては、長浦には無理に中学校を作らず、逆に小学校の児童数を学区編成の部分でしっかりさせるようにしていけば、必ずしも両方同時に併設校を作る必要はないと思います。
4	費用面に関して言えば、併設校に建て替えした場合に多額な費用を調達できるのかという心配があります。
5	学校現場では、学力向上や施設改修でいろいろな予算をやりくりして対応していただいていますが、例えば体育館のＬＥＤ化やトイレの洋式化など、実際に予算の順番待ちになっている状態の中で、風雨の際に雨漏りする学校がとても多い中で、多額の費用捻出が厳しいのではないかと思います。
6	多額な費用を使うことで他の予算を削るような状況は避けたいと考えています。

【方策案３　田浦小学校を現地で建て替えする。】

No.	内　容
1	田浦小中学校のシミュレーションの中で、行政の壁を越え、狭小ながらもわくわくするような小学校づくりを提案できれば面白いと思います。
2	田浦小学校については、少子化という状況なので、老朽化した部分だけを取り壊せば教室は足りるのではないですか。
3	田浦地域の児童数の減少に伴う教育環境整備の話であるため、その場での学校の建て替えは、児童数の減少の解消にはつながらないと思います。
4	現地での建て替えをするという方策の中で、まちづくりという大きなグランドデザインの中で小学校のあり方というものを再構築していただくようにして欲しいです。もしかしたら田浦小学校はこれで統廃合になってしまうかもしれませんが、いろいろなところで出てくる問題にもなりますので、大きな視野で、小さな学校づくりといいますか、設計士さんを交えて、その狭小のところでもできる工夫というものをしっかり作り上げていかなければ問題の解決にならないのではないかと思います。この田浦小学校のあり方というものが、横須賀市内、県、全国での学校の統廃合のベースになるというような思い切った舵取りをできるようにするということが大切なのかなと思います。